

インターハイで大健闘小田高イレブン

3回戦で惜しくも敗退 ベスト16に

- ◆……去る8月1日、高校総体が 四国の各地の会場で始まった。……◆
- ◆……小田高サッカー部は、14年ぶりの出場とあって、小田高生 ……◆
- ◆……をはじめOBの方々の期待が注がれた。同部はその期待に答 ……◆
- ◆……えるべく3回戦進出を果たした。参加51校を数える中、ベス……◆
- ◆……ト16になった同部の試合ぶりを順におって紹介しよう。……◆

小田高新聞 1980年9月13日号 より

14年ぶりの全国大会

8月2日に第1回戦が行なわれた。相手は北陸高校(福井県代表)で松山商科大学御幸グラウンドで13時15分キックオフ。14年ぶりの全国大会出場ということで小田高生徒をはじめとしてOBたちからの期待の重みと、会場の雰囲気への圧迫に堪えられなかったのか、試合前半の選手たちの行動は、異常にも思えた。瀬戸先生の指示が選手たちに思うように伝わらなく、選手たちの足はガタガタ震え、ひざが曲げられない状態だった。神奈川県大会を勝ち抜いた自分たちの実力を出しきれず、試合の流れは相手にあつた。そして、まんまと先取点は相手校に。しかし、点を取られたということで、あがっていた選手たちも多少落ちついてきたのか、多田君のコーナーからのヘディングシュートで同点。これで落ち着きを見せたかに思えた選手たちもまだあがっていて、またまた1点取られてしまった。このまま前半は終了し、1-2で後半に臨んだ。

負けたら帰さんぞ

前半と後半の間のハーフタイムの時、瀬戸先生は選手たちに喝を入れた。

「負けたら帰さんぞ。」この一声に目覚めたのか、前半が終わってようやく落ち着きを取り戻したのか、後半、選手たちは、自分たちのプレーを行った。力石君の同点シュートのあと、塩浦君のPKなど3点を奪い、差を3点として試合を決定的なもの

にした。結局5-2と前半のプレーを除けば、まずまずの勝利。この試合についてキャプテンの内山君は、「前半あがってしまって、プレーがしっかりできなかった。しかし、後半は調子が良かった。」と語ってくれた。

強豪佐賀商業

第2回戦は、強豪佐賀商業(佐賀県代表)が相手。8月3日、私立愛光高校グラウンドで行なわれた。佐賀商は、1回戦で磐城商高(福島県代表)を破ってきたチームだ。毎年良い成績を収めるため、優勝候補の一角とされていた。相手が相手だけに、選手全員の意気込みは大変なものだった。選手たちの心の中は、「強い相手だから、がんばってみよう。」ということだった。一方、瀬戸先生は、相手チームの長所や短所をすべく指摘して、相手チームの短所を引き出し、なおかつ自分たちの良い面を出すようにとアドバイスした。一見難しそうなこのアドバイスを選手たちは忠実に守ってプレーした。強豪佐賀商とはいえ、これだけのプレーをされればひとたまりもなく、前半橋本君のシュート、後半塩浦君のシュートで2-0として試合を決めた。

持ち前のチームワークで

キャプテンの内山君の話では、この試合が一番苦しかったそうだ。やはりいくら自分たちが完璧なプレーをしても相手は必死である。また、強豪といわれるほどだから、個人技

は小田高のそれを大きく上まわっていた。しかし持ち前のチームワークの良さや自分の力を出しきったことによってこの難関を乗り越えた。この勝利は、各選手もとてもうれしく、後半の得点の時、シュートを決めた塩浦君は得意のガッツポーズをしたそうだ。

選手たちは、佐賀商に勝った自信と期待を持ち翌日の3回戦に臨んだ。

雨・寒さ・風の3回戦

3回戦は8月4日、運動公園球技場において、松江南高校(島根県代表)で行なわれた。この日は、雨・寒さ・風・芝生と悪条件が重なり、台風のような天候の中で行なわれた。グラウンドは水がたまっていて、ボールさばきが思うようにできない状態だった。パスをする際小田高チームはボールを転がしてしまっただけで、そのため水の抵抗を受けボールは思うように味方に伝わらず、相手にインターセプトされた。

浮き球を使え

瀬戸先生は、「ボールを転がさず、あげてパスしろ。」と指示したが選手たちにあまり通じなかった。小田高チームが負けてしまった原因はもう1つある。それは昨日、強豪佐賀商に勝ったことだ。佐賀商に勝ったことでチーム全員安心しきっていた。松江南高をあまく見ていたのだ。松江南高のチームは、パスと速攻がうまかったので小田高が試合の流れをもっていたが速攻でやられてしまった。橋本君がけがしていた時1点がいってしまったし、またうまい速攻でもう1点。小田高チームは、押していながら点はいらなくて、ずるずると自分の力を出さぬまま2-0と松江南高の前に屈した。キャプテンの内山君は「勝てると思ったが、相手がうまかった。」と話してくれた。ちなみに松江南高は小田高を破った後、ペスト4入りを果たし、その力を見せつけた。

次の試合では、浦和南(埼玉県代表)も敗れるという大波乱もあり、その日のグランドコンディションの悪さを物語っている。相手も同じ条件だったのでしょうがないがとにかく残念な試合結果となってしまった。

大会を終えて

「よくがんばった。」と言われるのは瀬戸先生。「みんなよくやってくれた。」と言うのはキャプテンの内山君。選手全員がいっしょうけんめいボールを追い、泥まみれになって練習した結果、14年ぶりの全国大会でベスト16入りしたのである。

この大会を終え、サッカー部全員が大きな自信を得たことだろう。また、今後の大会の期待もふくれあがっていることだろう。今度の大きな大会は、正月に行われる大会だ。テレビでも放送され、みんなの関心が高い大会だ。この大会に対して、現在のレギュラーは全部残り、大会に備え練習するという。正月といえば、1月に行われる共通一次が思い出されるが、レギュラーはほとんどが3年生。進学に影響はないのかと心配だが、キャプテンの内山君は、「勉強とサッカーの両立をめざす。」と笑顔で答えてくれた。高校野球で、都立校として初めて甲子園行きのキップを手に入れた国立高校にできて小田高にできないわけではない。両立こそ、あるべき姿ではないだろうか。ぜひともがんばって出場してもらいたいものである。最後にキャプテンの内山君に苦しかった事はと聞くと「やっぱり佐賀商戦がいちばん苦しかった。」と答えてくれた。

以上小田高新聞より